

(様式4)

◆ (氏名) 菅長 理恵

<所属・職名>

東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授

<略歴>

1998年3月31日 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻 博士課程単位取得退学

1998年4月1日～ 東京外国語大学 留学生日本語教育センター 講師

2004年4月1日～ 同 准教授

2018年4月1日～ 現職

<これまでの研究活動、外国人児童生徒等教育に関する経験など>

DLA 開発・普及活動

DLA 研修講師

<対応可能学校種>

<遠隔での指導助言> ※いずれかの□にチェックを記入してください。

対応可  対応不可

<その他(国等の委員歴等)>

<関連URL>

<講師として担当可能な内容>

別紙「講師として担当可能な内容(モデルプログラム「養成・研修の内容構成」対応)」のA～Nの書く欄に、◎または○を付けてください。

※別紙に○を付けていただいた内容は、一覧表に整理して文部科学省ホームページに掲載いたします。

※ 本様式は文部科学省ホームページに掲載いたします。

## 講師として担当可能な内容（モデルプログラム「養成・研修の内容構成」対応）

内容	○大項目 ・小項目 ※項目の一部は複数の内容で取り扱う	担当可能◎ 基礎的内容 は可能○
A 外国人 児童生徒等 教育の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバル化と外国人児童生徒等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化化する学校</li> <li>・複言語主義</li> <li>・多文化主義</li> <li>・言語的マイノリティ</li> </ul> </li> <li>○文化間移動とライフコース               <ul style="list-style-type: none"> <li>・成長・発達の視点</li> <li>・社会参加と自己実現</li> <li>・アイデンティティ</li> </ul> </li> <li>○多文化共生教育               <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化間能力</li> <li>・ダイバーシティ</li> <li>・市民性</li> </ul> </li> <li>○公教育の役割               <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的正義、公正性</li> <li>・学習権・言語権</li> <li>・教育コミュニティ</li> </ul> </li> <li>○日本語教育の位置付け</li> </ul>	○
B 外国人 児童生徒 等教育の 背景・現 状・施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人児童生徒等の現状と背景               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」</li> <li>・在留外国人統計</li> <li>・在留資格</li> <li>・児童生徒の出身地の教育制度</li> <li>・来日の社会的歴史的背景(国際結婚、難民、中国帰国者、日系移民、在日コリアン)</li> </ul> </li> <li>○外国人児童生徒等教育施策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教育課程」としての日本語指導</li> <li>・文部科学省開発のカリキュラム、教材、評価ツール</li> <li>・就学義務と学習権（不就学、義務教育年齢超過）</li> <li>・学校制度と入試（高校入試、定時制高校、夜間中学、進学・退学率）</li> </ul> </li> <li>○地域の特性               <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該自治体の多文化化状況（集住／散在）</li> <li>・エスニック・コミュニティ</li> <li>・外国人支援の状況</li> </ul> </li> </ul>	○
C 学校の 受け入れ 体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自治体の受け入れの流れ</li> <li>○自治体（教育委員会）の指導体制               <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学級の設置</li> <li>・拠点校（センター校）</li> <li>・巡回指導</li> <li>・通級</li> <li>・初期集中日本語指導教室（プレクラス）</li> <li>・就学前準備教育教室（プレスクール）</li> <li>・日本語指導員・母語相談員の派遣</li> </ul> </li> <li>○校内の指導体制               <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌（外国人児童生徒等教育担当、日本語指導担当）</li> <li>・スクール・カウンセラー、ソーシャルワーカーとの連携</li> <li>・教員の加配</li> <li>・派遣日本語指導員、母語相談員</li> <li>・ボランティアの日本語支援者、学習支援者、母語支援者</li> <li>・取り出し指導（抽出指導）／入り込み指導</li> <li>・「特別の教育課程」と個別の指導計画</li> <li>・評価と成績</li> </ul> </li> <li>○教員・支援員間の連携               <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内教職員・支援員の連携</li> <li>・他校との連携</li> <li>・保幼小中高間連携</li> </ul> </li> </ul>	○
D 文化適 応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人児童生徒等の文化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教</li> <li>・習慣</li> <li>・学校文化（「隠れたカリキュラム」）</li> <li>・非言語行動</li> </ul> </li> <li>○文化接触               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自文化中心主義／文化相対主義</li> <li>・文化本質主義／文化構築主義</li> <li>・ステレオタイプ、偏見、差別</li> <li>・対話</li> <li>・異文化の受容</li> <li>・自己肯定感</li> </ul> </li> <li>○子どもの文化適応               <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化適応のプロセス</li> <li>・心的文化変容（同化、分離、統合、境界化）</li> <li>・情意面、行動面、認知面の違い</li> </ul> </li> </ul>	○

<p>E 母語・母文化・アイデンティティ</p>	<p>○母語と第二言語                  ・バイリンガリズム ・二つの言語の関係 (二言語相互依存仮説)                  ・言語環境 ・言語の使い分け                  ○アイデンティティ                  ・アイデンティティの動態性・多面性 ・母語・母文化とアイデンティティ                  ○母語／継承語教育                  ・家族とのコミュニケーション ・認知面の支えとしての母語                  ・母語保持・伸長の支援</p>	<p>○</p>
<p>F 言語と認知の発達</p>	<p>○子どもの言語発達                  ・一次的事ことばと二次的事ことば ・萌芽的リテラシー ・ことばと思考                  ・第二言語習得のプロセス(沈黙期、チャンク等) ・言語発達と発達障害、学習障害                  ○言語能力の捉え方                  ・コミュニケーション能力 ・言語の四技能 ・生活言語能力と学習言語能力                  ○言語能力の測定法                  ・言語テストの目的、実施方法、結果の活用                  ・言語能力測定ツール (文部科学省「JSL 児童生徒のための対話型アセスメント (DLA)」)</p>	<p>◎</p>
<p>G 日本語の特徴</p>	<p>○外国語としての日本語                  ・音韻、文字・表記、語彙、文法 ・学校文法との違い ・諸言語との対照                  ○文章・談話                  ・ジャンルと文体 ・ことばの機能 ・表現の意図 ・結束性                  ○場面とことば                  ・言語使用域 ・敬語 ・話しことばと書きことば                  ・共通語と方言 ・ことばの性差</p>	<p>○</p>
<p>H 子どもの日本語教育の理論と方法</p>	<p>○日本語指導の内容 (シラバス)                  ・構造 (文型)、場面、トピック、機能 等                  ○言語教育の考え方と方法                  ・オーディオリンガル・アプローチとコミュニカティブ・アプローチ                  ・内容 (教科等) と言語 (日本語) の統合学習 (文部科学省「JSL カリキュラム」)                  ・認知プロセスにもとづく読み・書きの指導                  ○学習活動                  ・文型練習 (パターン・プラクティス等)                  ・意味を重視した活動 (タスク、ロールプレイ、プロジェクトワーク等)                  ○教材・教具 (リソース) の利用と作成                  ・教材の分析 ・教材の作成 (補助教材・ワークシート・リライト教材等)                  ・メディアの活用 ・知的財産権・著作権                  ○教科の指導                  ・「主体的・対話的で深い学び」 ・教科教育法                  ・授業のことば ・教科のことば ・学習参加のための支援</p>	<p>○</p>
<p>I 日本語指導の計画と実施</p>	<p>○日本語のコース設計の手順                  ・実態把握 (学習歴、出身国の教育内容、日本語の力、教科の力、学習環境)                  ・目標設定と指導内容の決定 ・指導方法と評価方法の決定                  ○日本語プログラム                  ・サバイバル、日本語基礎、技能別日本語、内容と日本語の統合学習「JSL カリキュラム」)、教科の補習                  ・キャリア教育、人権教育、国際理解教育等とのクロスカリキュラム                  ○指導計画の作成                  ・年間指導計画の作成 ・対象児童生徒と指導期間の決定 ・目標と評価                  ・日本語プログラムの組み合わせ ・「特別の教育課程」としての日本語指導                  ○模擬授業                  ・日本語指導の学習指導案の作成 ・模擬授業の実施 ・振り返り</p>	<p>○</p>

J 在籍学級での学習支援	<p>○学習参加のための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキヤフオールディング（足場かけ 例：「JSL カリキュラム中学校編」日本語支援の5つの視点）</li> <li>・フォーカス・オン・フォーム</li> </ul> <p>○学習環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内、教室内の掲示</li> <li>・教材の言語面への配慮（教材、教具、試験問題）</li> <li>・周囲の児童生徒との相互学習</li> <li>・周囲の児童生徒による支援</li> </ul> <p>○日本語学習と他教科の内容・活動との関連付け（カリキュラム・マネジメント）</p>	○
K 社会参加とキャリア教育	<p>○キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己実現</li> <li>・ロールモデル</li> <li>・進路指導（進学・就職／多言語進路ガイダンス）</li> <li>・外国人生徒等対象の特別入試、特別措置</li> <li>・就労と在留資格</li> </ul> <p>○社会参加とことばの力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報リテラシー</li> <li>・社会参画</li> <li>・市民性教育</li> </ul>	
L 保護者・地域とのネットワーク	<p>○保護者の教育参加の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語力への配慮（通訳・翻訳、やさしい日本語）</li> <li>・教育制度・学校文化理解の促進（学校行事、就学・進路関係資料、学校のお知らせ）</li> <li>・就学ガイダンス、外国人保護者懇談会等の実施</li> <li>・保護者の社会的状況への配慮（外国人の雇用状況とその背景等）</li> </ul> <p>○多文化家族</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語・文化の違いによる断絶</li> <li>・サード・カルチャー・キッズ</li> </ul> <p>○地域、専門家との連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の外国人支援の状況</li> <li>・エスニック・コミュニティ</li> <li>・居場所づくり</li> <li>・国際交流協会、NPO 団体等との連携</li> <li>・福祉・医療等関連機関との連携</li> <li>・大学等教育研究機関との連携</li> </ul>	
M 現場における実践（実地教育・研修）	<p>○現場での実践（観察、交流、支援、授業の実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童生徒の多様性（言語文化・年齢・家族背景・滞日歴・学習歴他）の理解</li> <li>・指導体制・指導条件の多様性の理解</li> <li>・条件に応じた指導計画の作成</li> <li>・状況に応じた支援の工夫</li> <li>・関係者との連携・協働</li> </ul> <p>○実施記録の作成と振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の状況</li> <li>・実施内容</li> <li>・授業・活動時の児童生徒の参加状況</li> <li>・担当教員・関係者から得た情報</li> </ul> <p>○実施した授業の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した指導計画について</li> <li>・当初の子ども観・教材観・指導観等</li> <li>・児童生徒の学び</li> <li>・授業時の支援・対応について</li> </ul> <p>○現場での実践における倫理</p>	
N 成長する教師（教員・支援員）	<p>○省察的実践家</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の変容</li> <li>・自己研修</li> <li>・実践の共有</li> </ul> <p>○外国人児童生徒等教育の専門性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教育に関わる専門性</li> <li>・外国人児童生徒等教育に関わる専門性</li> <li>・他の領域の専門家との協働</li> </ul> <p>○教師（教員・支援員）としての成長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のキャリアにおける外国人児童生徒等教育経験の意味</li> <li>・リーダーとしての役割</li> <li>・新しい価値の創造</li> <li>・社会への働きかけ</li> </ul>	

文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」（公益社団法人日本語教育学会）